

開催日：2019年5月10日（金）10：40～11：40

リポーター：佐々木ゼミナール 佐々木信昭

- ・今年から中学と高校のそれぞれに校長を置くことになった。
- ・来年の入試から合格発表を即日発表にする。
- ・本校の国語の入試問題は記述式解答が多いので大変だが踏み切る。書く力、自分の意見を発表する力を重視する。
- ・新しい一万円札の渋沢栄一は本大学の三代目学長。
- ・廊下の壁に各クラスの全員の美術作品、国語、社会のレポート、調理実習の写真付きレポート、陶芸(シーサーのお面)がびっしり展示してある。
- ・算数は、週一でクラスを半分に分ける。提出物も合格するまで再提出を繰り返して学力向上を図る。2回目入試の二番(7)は見かけで6割の生徒が二等辺三角形にしていた。毎年グラフを出題。
- ・理科は、毎週実験がある。年間40回の実験。月の問題は出来が悪かった。グラフに記入する問題で、小数、分数の数値の打ち方がいい加減。上皿天秤は使われていないのか、今一つの出来だった。地球温暖化の記述問題。
- ・社会は、漆器を知らない生徒が多い。参勤交代がどういうものか分かっていない。小学校の教科書内容からしか出題しない。
- ・国語は長い問題文で、自分の言葉で答えなさい、が特徴。今年は1回目14頁、2回目は17頁で、さすがに長過ぎたので、来年はもう少し短くする。入学後も書かせるが、入試でも書かせる。[この『書かせる』出題には、抜き出し記述の学習では太刀打ち出来ない。長文を読み、自分で考えて書く、という勉強法が必要。こうした出願の宝庫の過去問をみっちりやることが、何よりの近道です。]
- ・大学は2021年に全て目白に移る。
- ・学年374人のうち、日本女子大学への内部進学278人、他大学進学78人、浪人17人、専門学校1人。他大学を受験しても内部進学可能。
- ・今年の入試結果について
 - 1回目は受験生177人、合格者97人、倍率1.8倍、合格者平均129.3点、合格最低点114点、
 - 2回目は受験生137人、合格者69人、倍率2.0倍、合格者平均点135.1点、合格者最低点119点、繰り上げ合格5人、
 - 帰国子女入試は受験生15人、合格者11人、倍率1.4倍、午後の面接は1回目2時20分、2回目1時20分に終了するので、他校の午後受験も可能。

<リポーターの感想>

- ・説明会前の授業参観では、数学の授業はなかなかハイレベルでした。
- ・「以前より週2回の音楽の授業のうち、1回はバイオリン演奏の授業をしています。毎週バイオリンを弾いていると上達します。音楽教室に生徒の人数分のバイオリンが常備してあります。」とのこと。今まで知りませんでした。生徒さんは皆バイオリンを弾けるんですね。う～ん、素敵ですね。
- ・読売ランド前の駅から10分ほど歩いて到着します。山を一つ買って校舎を建てているような配置。森の中にある学校です。今日は啼いていませんでしたが、鶯が啼いているのが昨年まで聞こえました。緑に囲まれた校舎の音楽室でバイオリンの授業、何とも言えないですね。情操教育は抜群ですね。